

経営比較分析表

和歌山県 日高川町

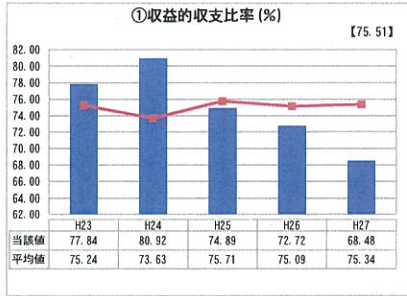
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	91.61	1,850

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
10,279	331.59	31.00
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
9,379	45.16	207.68

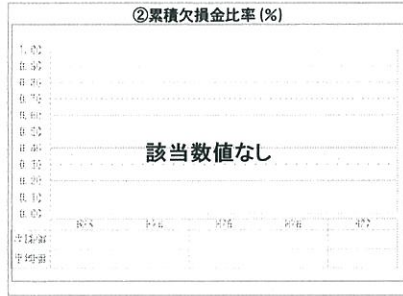
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

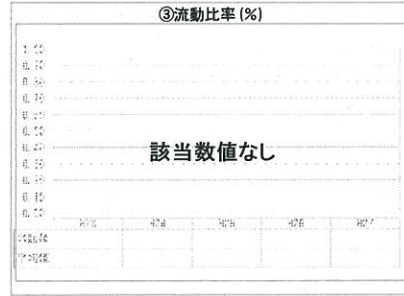
1. 経営の健全性・効率性



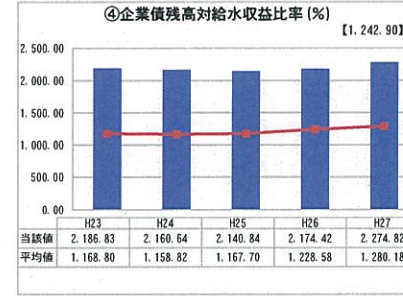
「単年度の収支」



「累積欠損」



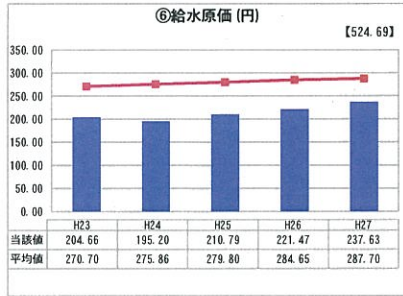
「支払能力」



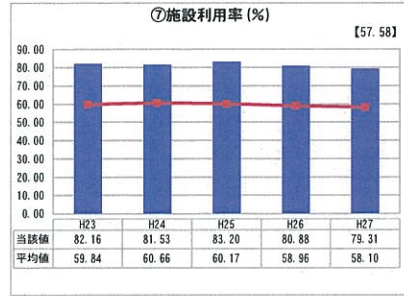
「債務残高」



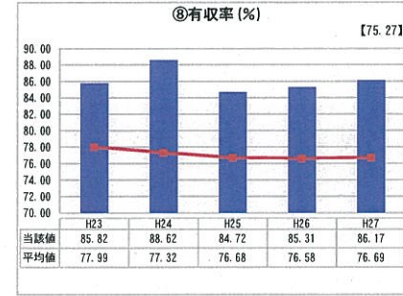
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

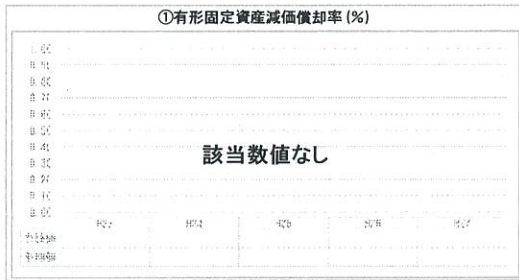


「施設の効率性」

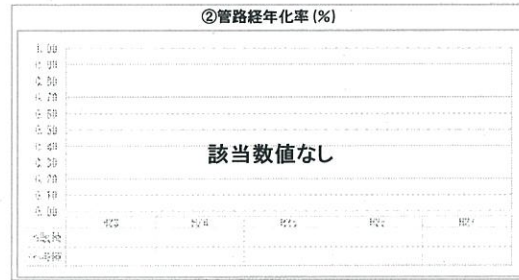


「供給した配水量の効率性」

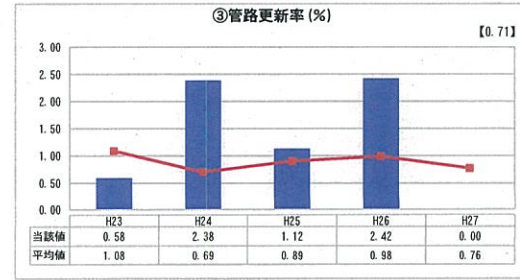
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

簡易水道会計において、収益的収支は赤字であり一般会計からの基準内繰入と町独自の基準に基づく基準外繰入を行い、資本的収支との差引により黒字となっているが、近年の簡水統合や施設更新による建設改良費に充てた地方債の償還額が増加傾向にあるなか給水人口の減少に伴い給水収益が減少となってきている。料金回収率は全国平均値より高いものの類似団体と比較するとやや低い値であるため、更なる経費の削減や投資の効率化、料金水準の適切化を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

現在、水道施設は供用開始後30年以上経過した施設があり、特に管路施設の割合が高い状況である。管路更新については、平成27年度は浄水場の新設事業があることから行っていない。施設全てを更新するには莫大の費用が掛かるため、優先順位を付けて計画的に更新事業を実施している。

全体総括

極端な給水人口の増加が見込めず、限られた有収水量のなかで適切な料金収入を確保するために水道料金の見直しを検討する必要がある。また投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善を図っていくなければならない。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。